

令和5年産米の需要に応じた生産推進の徹底について

令和4年12月27日
埼玉県農業再生協議会

令和4年12月23日に開催された埼玉県農業再生協議会臨時総会において、令和5年産米の埼玉県の「生産の目安」および「水田農業作付ビジョン」を策定いたしました。令和5年産の「生産の目安については、本県における令和4年産の深掘り実績及び直近の在庫量の減少等を踏まえ、昨年の「生産の目安」の面積を据え置く形で目標をお示ししたところです。

しかしながら、令和4年産米においては全国的に大規模な作付転換を達成したものの、民間在庫量は依然として高い水準で推移しており、米価は未だ回復の途上であるなど、予断を許さない状況が続いております。

このため、下記のとおり、改めて直近の米をめぐる需給環境を周知するとともに、今後の見通しと対応についてご連絡しますので、ご理解のうえ、米の需要に応じた生産に向けたより一層の推進をいただきますようお願いいたします。

記

1. 直近の販売の概況

新型コロナウイルス感染症の影響から業務用米を中心として需要が減少したことを受け、令和3年産からの持ち越し在庫が増加しました。令和4年産は、全国的に主食用米からの作付転換が進み需給が締まり、民間在庫は昨年と比較して減少したものの、依然として高い水準で推移しています。

また、相対取引価格も回復傾向にあります。平成29年から令和元年頃と比較すると、完全な回復には至っていません。

(1) 民間在庫数量（令和4年10月末時点）

埼玉県内	32,800ト	(前年▲3,300ト、90.9%)
全 国	3,140,000ト	(前年▲160,000ト、95.2%)

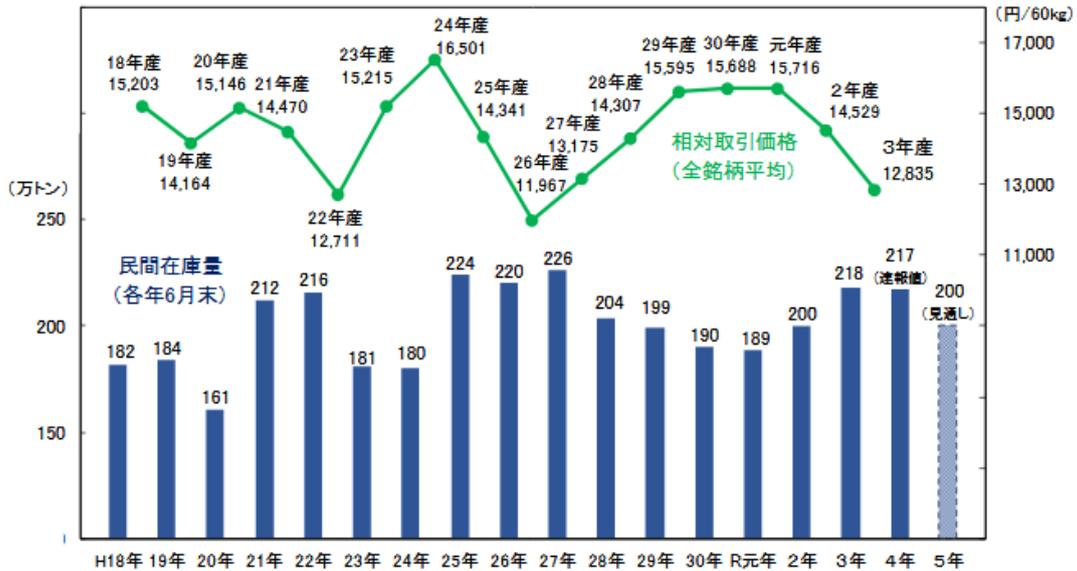
※農林水産省「米穀の取引に関する報告」より

(2) 相対取引価格（税込）（令和4年10月末時点）

全銘柄平均	13,898円/俵	(前年+1,117円/俵)
-------	-----------	---------------

※農林水産省「米穀の取引に関する報告」より

(3) 相対取引価格と民間在庫量の推移



※農林水産省「米をめぐる状況について」より

2. 作付転換の徹底について

「令和5年産埼玉県水田農業作付ビジョン」に示すとおり、基本的な方針として、「生産の目安」を確実に達成したうえで、毎年約10万トン減少すると言われている主食用米需要の実態や高水準にある在庫状況を勘案し、令和4年産と同程度の作付面積まで深掘りの推進をお願いします。

なお、作付転換にあたっては、5～10年後を見据えた中長期的な視点から、地域の水田農業の実態に応じた定着性の高い需要のある作物（麦・大豆・飼料作物・高収益作物等）への転換を検討してください。

- (1) 令和5年産主食用米生産の目安 28,285ha
- (2) 令和4年産主食用米の作付実績 27,400ha（深掘り目安）

3. 今後のスケジュール

- (1) 令和4年度地域農業再生協議会等担当者会議
令和5年1月13日（金）
- (2) 生産者に対するチラシの作成配布
令和5年1月
- (3) 地域再生協議会への巡回および意見交換会の実施
令和5年1月～5月

担当：埼玉県農業再生協議会事務局
全農さいたま米麦部米麦課
JA埼玉県中央会JA支援部農政対策担当
埼玉県農林部生産振興課主穀担当